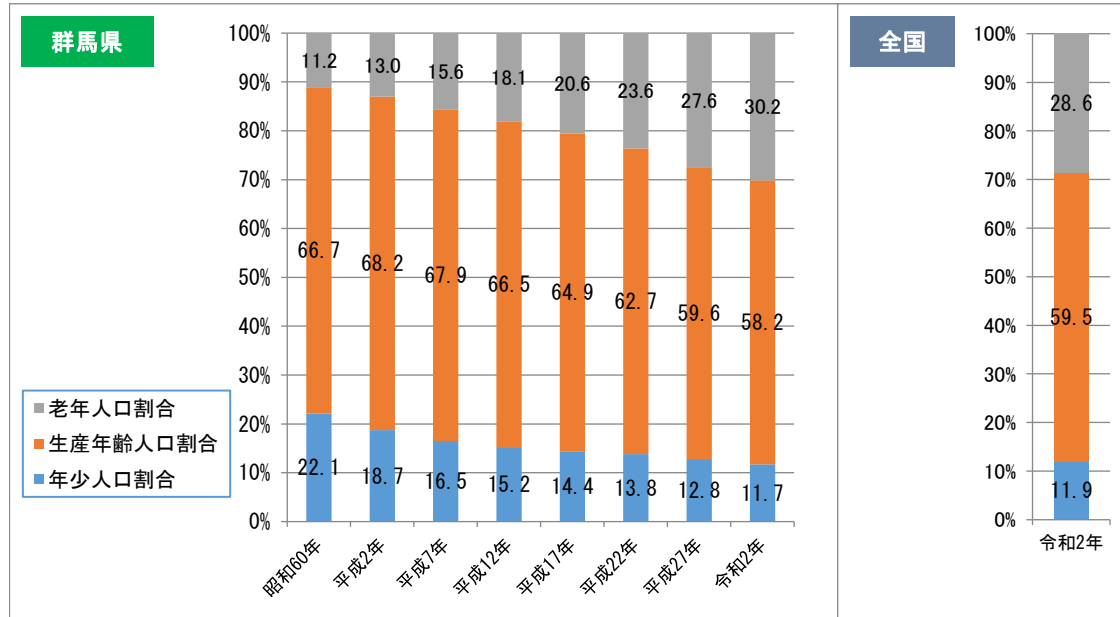


群馬県の現状 (令和5年度)

1 人口

総務省統計局人口推計による令和3年10月1日現在の群馬県の人口は、192万7千人(全国18位)であり、また、令和2年総務省国勢調査による人口に占める年齢別人口の割合は、0～14歳の年少人口割合が11.7%、15～64歳の生産年齢人口が58.2%、65歳以上の老年人口が30.2%であり、65歳以上の人口割合は、平成27年と比べ2.6ポイント増加している。

図1 年齢区分別人口割合の推移



2 就業状態

群馬県の労働力人口は1,007,967人で、労働力率(15歳以上人口に占める労働力人口の割合)は61.0%(全国60.7%)である(令和2年総務省「国勢調査」)。

3 産業

(1) 事業所数および従業者数の状況

群馬県の民営事業者数は84,119事業所で全国18位である。また、群馬県の民営事業所における従業者数は、889,631人で全国17位である(令和3年「経済センサス活動調査」)。

(2) 産業分類別事業所数及び従業者数

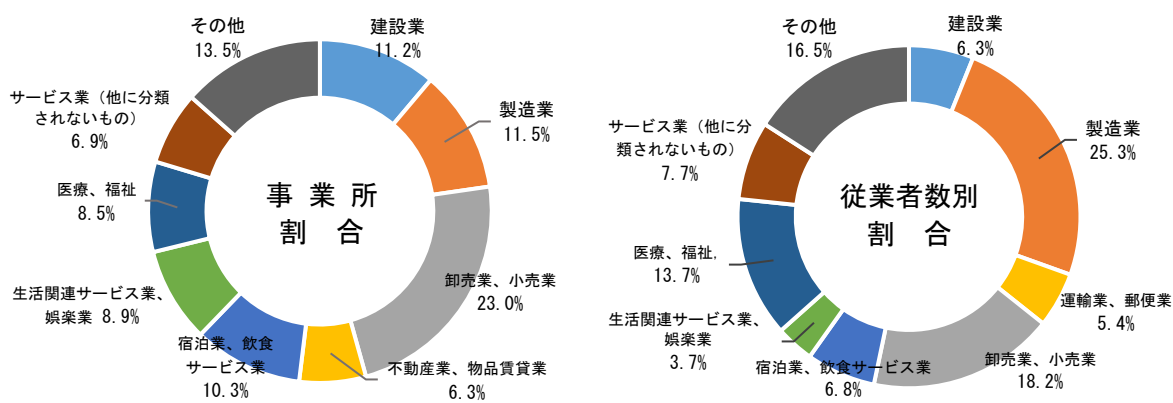
<事業所数>

産業大分類別に事業所数をみると、「卸売業、小売業」が19,317事業所(全産業の23.0%)と最も多く、次いで「製造業」9,712事業所(同11.5%)、「建設業」が9,390事業所(同11.2%)となっており、上位3産業で全産業の4割5分を占めている(令和3年「経済センサス活動調査」)。

<従業者数>

産業大分類別に従業者数をみると、「製造業」が224,642人（全産業の25.3%）と最も多く、次いで「卸売業、小売業」が162,118人（同18.2%）、「医療、福祉」が121,842人（同13.7%）となっており、上位3産業で全産業の6割弱を占めている（令和3年「経済センサス活動調査」）。

図2 産業大分類別事業所・従業者割合

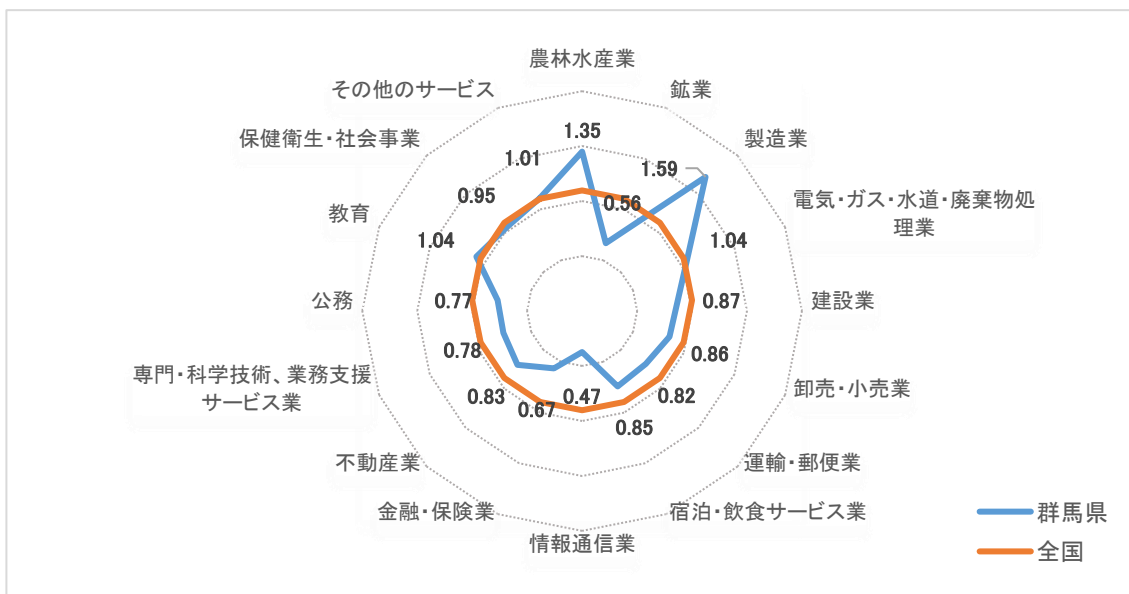


4 県民経済計算

令和2年度の群馬県の県内総生産（名目）で8兆6,535億円、一人当たりの県民所得は2,937千円となっている。

また、令和2年度の製造業の特化係数（全国の産業構造の構成比を1とした場合）は1.59と全国を大きく上回る（群馬県「令和2年度県民経済計算の概要」）。

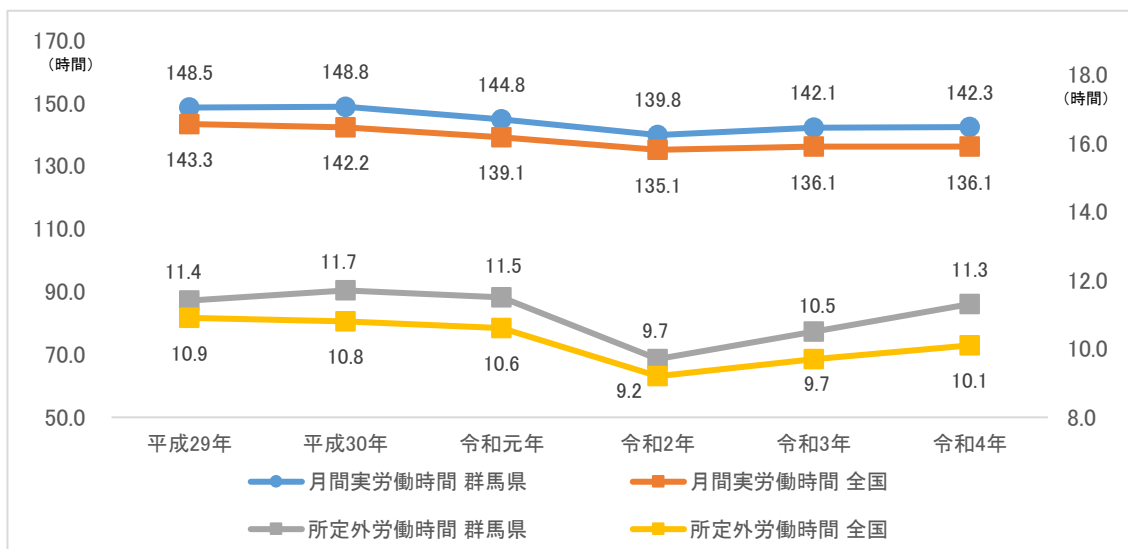
図3 特化係数（令和2年度）



5 労働時間

群馬県の令和4年の常用労働者1人平均月間実労働時間を全国と比較すると、142.3時間と全国より6.2時間長く全国平均を上回る。また、所定外労働時間についても、11.3時間と全国より1.2時間長く、2年前と比べると全国・群馬県共に増加している。(厚生労働省「毎月勤労統計調査(地方調査)」(事業所規模5人以上))。

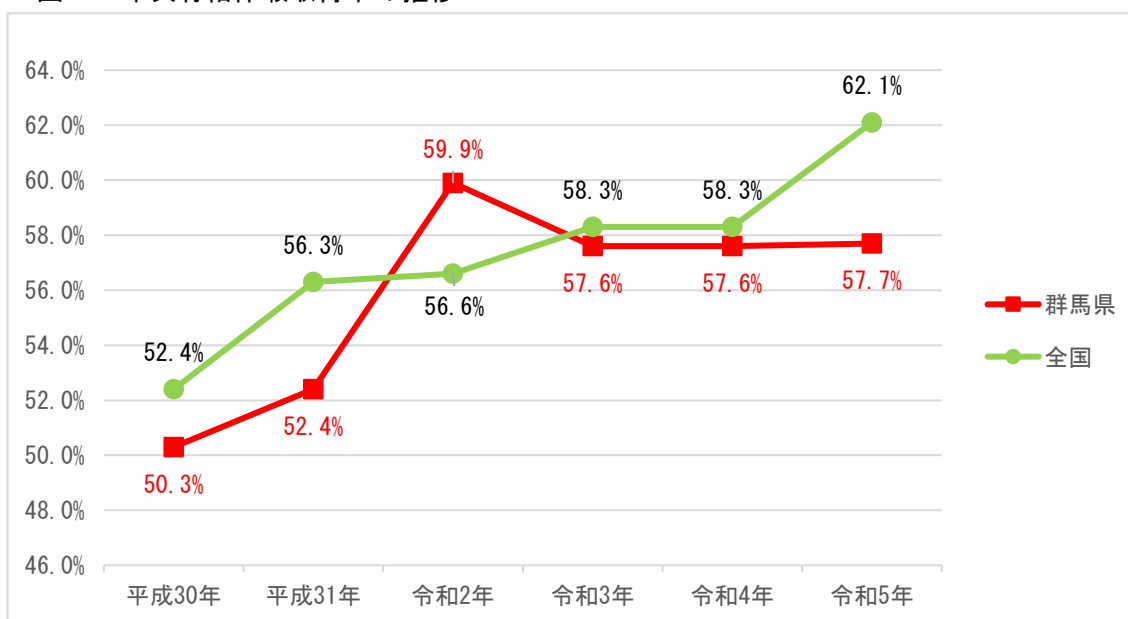
図4 労働時間の全国との比較



6 年次有給休暇

群馬県の年次有給休暇取得率は、令和2年度は全国平均を上回ったものの、令和3年以降の取得率は横ばいであり、全国平均を下回っている。(厚生労働省「就労条件総合調査」の特別集計から厚生労働省雇用環境・均等局職業生活両立課が作成)。

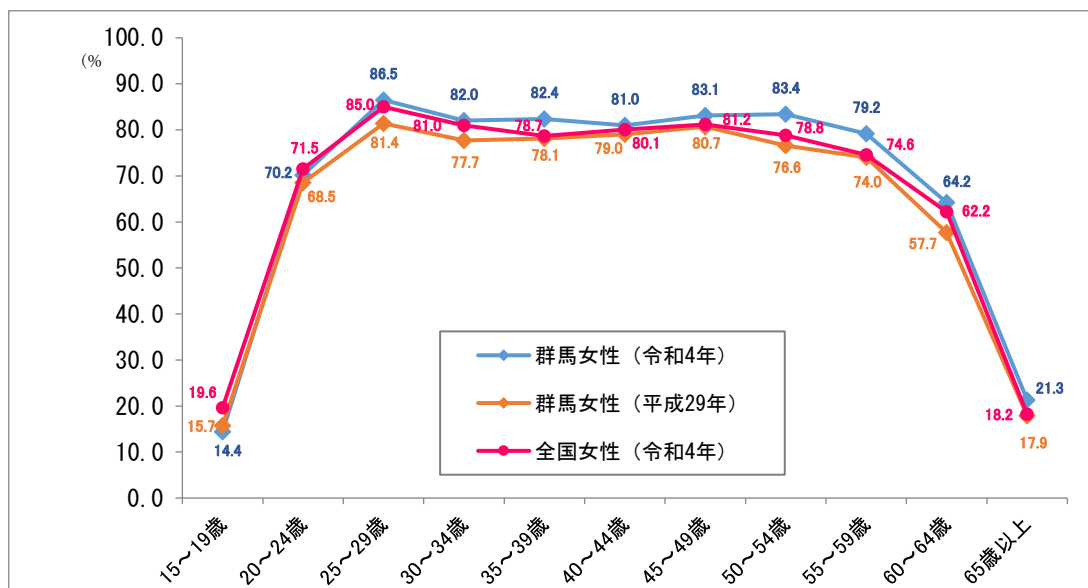
図5 年次有給休暇取得率の推移



7 女性労働者

群馬県の女性の有業率は全ての年齢階級別でほぼ全国より高く、台形型に近い形を示している。(令和4年総務省「就業構造基本調査」)。

図6 年齢階級別女性の有業率



8 短時間労働者

パートタイム労働者(アルバイトを含む)は、22万9千人で雇用者総数の24.6%を占め、雇用者に占めるパートタイム労働者の割合は増加している(令和4年総務省「就業構造基本調査」)。

図7 短時間労働者数の推移

